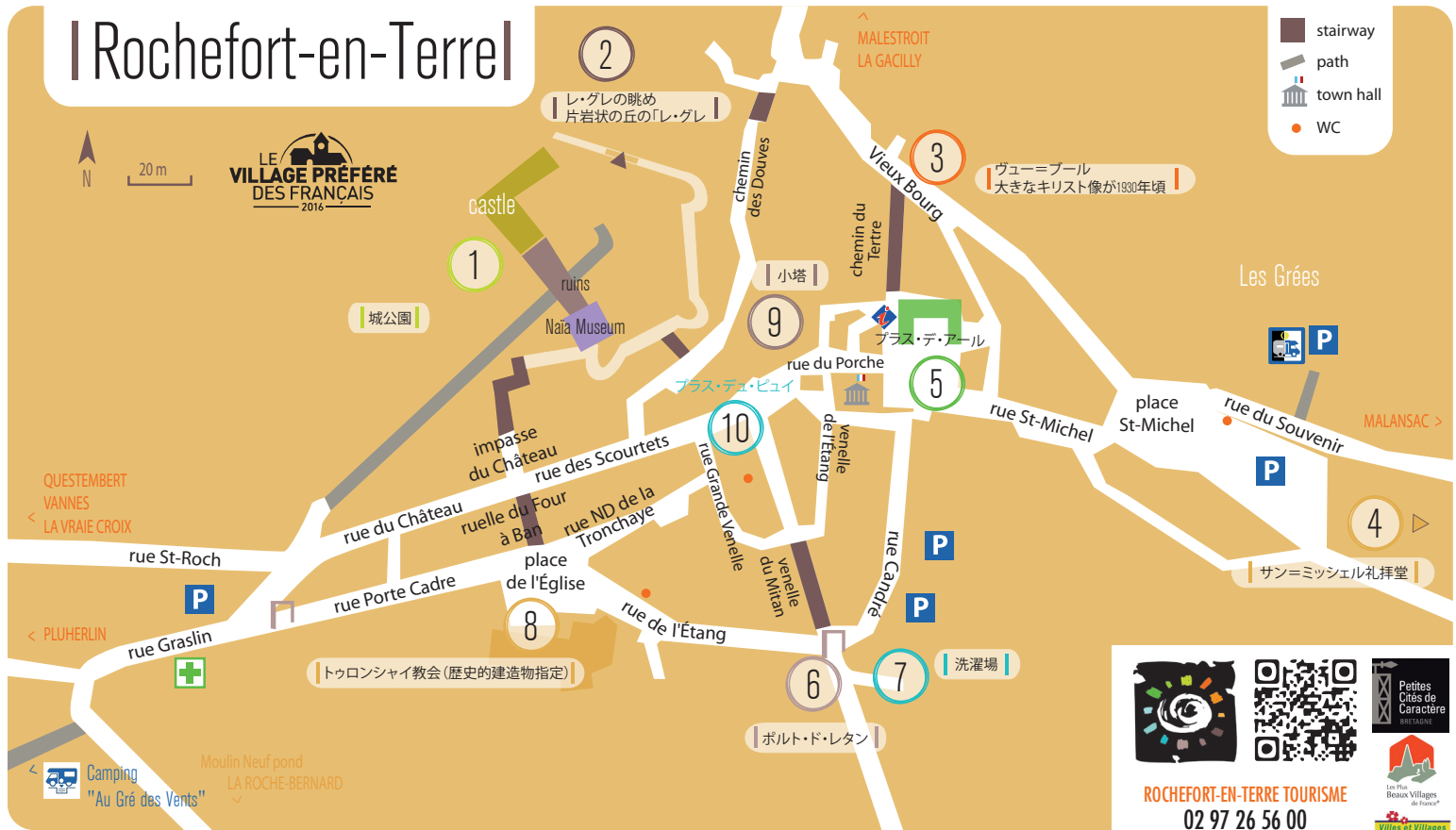


Rochefort-en-Terre



- stairway
- path
- town hall
- WC



ROCHEFORT-EN-TERRE TOURISME
02 97 26 56 00

Peitres Cités de Caractère BRETAGNE
Les Plus Beaux Villages de France®
Villes et Villages Fleuris

ロシュフォール=アン=テールによくこそ - 2016年改訂 ロシュフォール=アン=テールは、歴史的な建築遺産に恵まれた地です。この地の保護・保存に努める町全体の取り組みにより、「特徴的な小さな町 Petite Cité de Caractère」に指定されています。また、「フランスの最も美しい村 Les Plus Beaux Villages de France」に選出されており、「花の町・村 Les Villes et Villages Fleuris」の4つ花を獲得し、町と住む人々の努力が反映されています。12月は、5週間にわたって幻想的なイルミネーションが町を包み込みます。

1 城公園

プラタナスの通りを進むと、最初のロシュフォール城の現存する古城壁にたどりつきます。12世紀より、城、そして町は岩状の高台に建設されました。一族の名前は「ロシュ・フォルト Roche Forte」に由来します。15世紀より、ジャン4世・ド・リュエ/ロシュフォールによる統治の時代を経て、その息子、クロード1世による統治の下、町は繁栄を迎えました。ブルターニュ公の参謀であったジャン4世は、1488年、サン＝トバン＝デュ＝コルミエの戦いに参加しました。ここでフランス王はブルターニュに勝利しています。これにより、ロシュフォール城をはじめ、ブルターニュの城は廃城を命じられています。ブルターニュ公の死後、ジャン4世は、アンヌ・ド・ブルターニュの後見人となり、100,000エキュが与えられました。後にアンヌ・ド・ブルターニュはフランス王妃となっています。この報酬により、ジャン4世は城を建て、聖職者を教会に迎えています。紆余曲折を経て、城はフランス革命後、3度目の廃城となりました。20世紀初めに、アメリカの画家であるアルフレッド・クロッツが土地を購入し、廃城後の共用部分を館にしました。アルフレッド・クロッツの死後、息子のトラフォードが城を引き継いでいます。彼の死後、1976年に妻のイザベル・クロッツが城を引き継ぎ、1978年、モルビアン県議会に売却されました。2013年より、城はコミューン所有となっています。

2 レ・グレの眺め 片岩状の丘の「レ・グレ

はランド・ド・ランヴォーにあります。ブリュエルラン、マランサック、ロシュ

フォール＝アン＝テールの3つのコミューンにわたって、石材とスレートのために1911年まで探掘されていました。採石者はレ・グレの向かいにある、ヴュー＝ブールに住んでいました。この地は、村の職人たち（石工、大工、皮なめし工、織工、釘製造者、木靴職人）の住むところでもありました。現在、ランド地方の絶景としてレ・グレは自然保護区域に指定されています。

3 ヴュー＝ブール 大きなキリスト像が1930年頃、

ヴュー＝ブールに滞在した建築家により建てられました。片岩製の台座と木製十字架のキリスト像は生まれ変わっています。城や「貴族風」の建物が並ぶ地区のふもとは、ロシュフォールの多くの人々が住み、産業的な地区となっています。

4 サン＝ミッシェル礼拝堂

グレルのサン＝ミッシェル礼拝堂は、17世紀にさかのぼります。これは、ルドン大修道院に属するサン＝ミッシェル小修道院に続くものです。現在、礼拝堂（20世紀に改築）は、ノートル＝ダム・ド・ラ・トゥロンシャイのパルドン祭りを祝す際に利用されています（8月15日の日曜日）。

5 プラス・デ・アール

17世紀以降、ブールの大広場、プラス・デ・アールは、重要な経済地区の一つであり（レ・アール、U字型、フェア、市場）、また、フェスティバルなどの催し物が開かれています。レ・アールの右側、ホテル・ビュルバンは、17世紀の領主の牢獄でした。レ・アールの左側、ホテル・レストラン、ル・ペリカンはかつてオーベルジュ・ルカドルであり、19世

紀に、アルフレッド・クロッツをはじめ、多くの画家が訪れていました。ホテルの正面にある市庁舎は、毎年夏、樹齢200年の藤の花に包まれます。

6 ポルト・ド・レタン

この門はロシュフォールの入り口の一つです。この北と南を結ぶ軸は、塩のルートにつながるものです。塩は、ヴィレヌ川（ラ・ロシュ＝ベルナル、グランド）より運ばれ、ブルターニュ内陸部にたどりつきます。カンドレ通りは、主要な通りであり、「グランド・リュ」と呼ばれています。

7 洗濯場

16世紀のコミューンの洗濯場はル・カンドレの小川を活用しています。反対側には私有の洗濯場があります。

8 トゥロンシャイ教会（歴史的建造物指定）

ノートル・ダム・ド・ラ・トゥロンシャイ教会は、町のふもと、傾斜状の地と、興味深い場所にあります。9世紀または10世紀、ノルマンディーによる侵略の際、聖母マリア像を守るために、くぼみのある木の幹に隠されたと伝えられています。2世紀を経て、ある羊飼いがこの切り株からこの像を見つめました。そして、この場所に教会を建てることにしました。教会には、この歴史を物語るステンドグラスがあります。中庭に面して彫刻が施されたキリスト像があります。19世紀中頃までロシュフォールの墓地があった場所です。

入り口でまず目に飛び込むのは、南方向、そして西方向への地すべりにより傾斜した柱です。南側と東側には控え壁が

建てられ、身廊に平行する側廊を補強しています。1498年、ジャン4世・ド・リュエ/ロシュフォールは、領主とその一族の魂を癒すための祈りの場所として、聖職者の教会を建てました。クワイヤ（聖歌隊席）では、彫刻が施された聖職者席があります。1925年、ロシュフォール＝アン＝テールは、聖母マリアの町に指定され、2つのステンドグラスが注文されました。主祭壇の後方クワイヤには聖家族のステンドグラス（1926年）、また、木の幹で聖母マリア像を見つけた羊飼いのステンドグラス（1927年）があります。

9 小塔

16世紀の二戸建て建物の持ち送り構造（出窓）の小塔をぜひご覧ください。ゴシックとブルターニュのルネサンスの様式を組み合わせた個性的な装飾が特徴的です。

10 プラス・デュ・ピュイ

プラス・デュ・ピュイでは、片岩、花崗岩、持ち送り構造、木骨造の家が立ち並び、当時の建築様式に触れることができるでしょう。観光局（17世紀建築）の門の上には天秤の彫刻があり、かつては領主裁判所であった当時を思い起こさせるものです。プラス・デュ・ピュイには、町の最初の市場があります。この場所は、1793年、3人の反革命派がギロチンで処された場所であるともされています。